

第3回尾鷲市地方創生会議 議事録

目 的	令和3年度第3回尾鷲市地方創生会議
日 時	令和4年3月25日(金) 18:00~20:00
場 所	尾鷲市役所 3階 第2・3委員会室

内 容
出席委員：尾鷲市婦人の会連絡協議会 会長 塩津 史子 紀北信用金庫 常勤理事 奥村 浩之 株式会社ZTV 東紀州放送局 顧問 中西 加寿代 株式会社三重ティーエルオー 取締役副社長 松井 純 尾鷲公共職業安定所 所長 東 久文
欠 席：三重外湾漁業協同組合 尾鷲事業所 所長 山崎 孝治 尾鷲商工会議所 会頭 伊藤 整 尾鷲市林業振興協議会 会長 疇地 秀行
市出席者：政策調整課 課長 三鬼 望 参事 西村 美克 課長補佐兼企画調整係長 濱田 一多朗 主任 片原 敏貴
水産農林課 課長 芝山 有朋 調整監 丸茂 亮太
商工観光課 課長 森本 眞明
生涯学習課 課長 三鬼 基史 課長補佐兼生涯学習係長 丸田 智則
福祉保健課 課長 山口 修史 主幹兼高齢者福祉係長 川嶋 二郎 健康づくり係長 東 弓子
教育委員会教育総務課 課長 森下 陽之 学校教育調整監 植前 健
ランドブレイン(株) 忠田 季空
【事項書1 開会】
【事項書2 第2期尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について】 【基本目標1について 事務局片原より説明】 それでは、説明させていただきます。 事前に配布いたしております、総合戦略(案)冊子に沿って主な修正点について順に説明させていただきます。なお、本文修正箇所には、網掛けをしています。 修正の内容は、事務局において検討し、追加や修正を行ったものと、前回皆さまから頂きました意見や、議会行政常任委員会で頂きました意見で追加や修正を行ったものとなっております。 頂きました意見についての対応は、本日配布の資料「主な意見と対応事項一覧」のほうでもまとめてありますので、一覧も一緒にご覧いただければと思います。 まず基本目標1に入ります前に総合戦略(案)冊子の1ページをご覧ください。 第1章総合戦略の趣旨の4将来人口の見通しとしまして、1ページから3ページにかけて、現在公開されているなかで最新の人口推計と先般公表されました令和2年の国勢調査結果を基に更新した人口

展望を記載しました。

人口推計に関しましては「国立社会保障・人口問題研究所」のもので、こちらはまだ平成27年国勢調査を基に推計しているものが最新となります。

内容につきましては、「第7次尾鷲市総合計画」と同様で「尾鷲市人口ビジョン改訂版」のものを記載しており、尾鷲市の将来推計人口の減少を抑制することを目的としているということをわかるように追加いたしました。

続きまして15ページをご覧ください。

こちらには、その人口減少の抑制に直接的に作用する2つの数値を、「総合的な指標」という項目として新たに追加いたしました。指標につきましては、基本目標のところも含めまして後ほど、説明いたします。

続きまして、17ページをご覧ください。

前回の会議で意見をいただきました、表現の修正と週末兼業農家の推進などの施策を記載してはどうかとの意見から、水産農林課におきまして4つ目の●農業従事者の確保の3行目に追記しました。

次の18ページをご覧ください。

KPIの1行目耕作放棄地面積につきましては、前回の会議で全体の耕作地面積を書いて、その下に何%になるか記載してはどうかとの意見がありましたが、水産農林課におきまして、尾鷲市の耕地面積を追記しております。

以後全体としましては、前回KPIが分かりづらいので、出典とは別に内容を記載してはどうか、また事業についてもわかりづらいので、説明を入れてはどうか。また、用語についてもわかりづらいので用語説明を入れてはどうかのご意見をいただきましたので、追記いたしております。

用語説明に関しましては、今回の修正におきまして1ページの情報量が増え、また、同じ言葉が頻繁に出てくることから、それぞれのページではなく、米印をつけさせていただいて、巻末にまとめて記載しております。

続きまして19ページをご覧ください。

こちらにつきましても、前回この会議でいただきました意見から、水産農林課において表現を修正しています。●の2つ目販路の開拓支援については、ICTを活用した非対面と農業体験とが同じ文中で同時に記載されていたため、整理しました。

KPIの対象鳥獣捕獲頭数は、総数が分からないため被害報告件数などに改められないかとの意見がありましたが、尾鷲市鳥獣被害防止計画に記載のある捕獲数を指すとのことであります。

続きまして、22ページをご覧ください。

前回の会議において、KPIの一行目、団地化とあるが活用森林面積の何%に当たるか記載できないかとの意見があり、水産農林課におきまして、「市の民間所有人工林約6,500haの内」と追記いたしました。

続いて23ページのKPIの1行目、市有林の搬出量についてKPIとしていましたが、「市有林の管理面積」と変更し、「市有林のうちの経済林、約1,000haにおける、間伐等の施業面積」と追記いたしました。

続きまして27ページ、アオリイカ産卵床の設置基数は、5年経ってもほぼ変わらないような数値はKPIとしてどうかとの意見から、水産農林課において、削除し、また、KPIの3行目の調理体験のクラス数について全体の数字を記載できないかとの意見から全体数を追記しました。

続きまして28ページ、●の一つ目の2行目にある、協議会を発足させるところをスケジュールに記載できないかとの意見があり、商工観光課において、スケジュールの項目の1行目に伴走型支援に向けた協議会という項目を追加、令和4年度に発足する旨、追記いたしました。

続きまして30ページ、●の3つ目延伸された高速道路の活用におきまして、まずは三重県内の中勢北勢地域の販路開拓を記載した方が良くはないかとのことから、商工観光課におきまして、2行目に「県内北・中勢部や」と追記しています。

続いて33ページ、このスケジュールについて具体的に出来ないかとの意見があり、政策調整課におきまして、スケジュールの内容を追記しました。

続いて34ページは、KPIに企業支援数や交流の場創出件数を入れてはどうかとの意見がありましたが、政策調整課におきまして、起業支援数は＝協力隊員の退任後の起業数で、現在のKPIとなっているとのことであり、交流の場創出件数につきましては、例えばKPIの数値で表せられるような、例えば開催数やグループ数などといったカッチとしたものを想定しておらず、随時必要な時に自発的なものも含めて想定していますとのことでした。

基本目標1に対しての意見も踏まえた主な修正点の説明は以上となります。

松井座長：

ありがとうございます。大きな訂正箇所を説明いただきましたが、今の説明を聞いて何かご意見があればと思いますがいかがですか。

(質疑・意見) なし

今回は確認が主目的となるが、ご意見でも構わない。よろしいでしょうか。次にそれでは基本目標2の説明をお願いします。

【基本目標2について 事務局片原より説明】

それでは、基本目標2の主な修正点について説明させていただきます。

36ページをご覧ください。

●の二つ目移住スタイルが多様化しているという表現についてわかりづらいとの意見から、テレワークやワーケーション等、時代の変化に応じた柔軟な働き方を実現するために、移住スタイルが多様化していると追記しました。

続きまして39ページ、KPIについて、クラウドソーシングの実施は、関係案内所とともに行う実施事業数などと記載してはどうかという意見があり、説明欄にそのように追記いたしました。同じく40ページのKPI、外部人材との交流会の意味が分かりづらく市、NPO、地域、移住者などとともに行う関係案内所が実施事業として行う交流会イベントと記載してはどうかという意見があり、説明欄にそのように記載しました。

続きまして41ページ、本文上から3行目、企業に支援してもらえる環境というよりは、持続的に企業から支援を受けられるような環境と表現を変えてはどうかとの意見があり、そのように修正いたしました。

基本目標2に対しての意見も踏まえた主な修正点の説明は以上となります。

松井座長：

この点についてはいかがでしょうか。

なければ私の意見であります。38ページのKPIのアンケートの目標設定に80%を90%にする、92%と93%にすると目標を設定しているが、これはあまり意味がないと考えています。なぜならこれは郷土愛への誇りを示すものであると思うので、指標については尾鷲市で働きたいと思う割合を聞くなど、新たに設定するべきではないでしょうか。担当の方にお聞きしたい。

西村参事：

尾鷲高校に対するアンケート調査ですが、これまで行ってきたこととしては、「尾鷲高校まちいく」の授業を受けている2年生プログレッシブコースを受けている子に対し、この授業を受けて様々なことについて尾鷲はどうかということアンケートで聞いています。最終的にはこの授業を受けてよかったか、授業を通じて何か尾鷲の良い点や課題がわかったかなどで満足度を図っている状況であります。先ほどご意見を頂いたように、もう少しアンケートの内容を変えて調査をすることも考えられると思うので、これについては検討していきたいと思えます。

松井座長：

数字の%で表すことについては、これは何を表すかと聞かれることになるので、この点についてはもう少し考えた方が良くと思います。今後これについて会議でこれは何か、なんのために設定するかと聞かれた際に答えられないものであると思うので、お考えいただきたいと思えます。

塩津委員：

40ページの「移住ポータルサイトの活用」については、定住してきた人同士の交流ということについては以前よりあればよいという意見があり、内容に入れてあると思うので、これで問題ないと思えます。よくこのような会があれば、参加して自身の参考になっているという声も聞くので、増加の目標を示していただいていることで良いと思えます。

松井座長：

他によろしいでしょうか。

それでは続いて基本目標 3 についてご説明をお願いします。

【基本目標 3 について 事務局片原より説明】

それでは、基本目標 3 の主な修正点について、説明させていただきます。

4 3 ページをご覧ください。

スケジュールについて、令和 4 年度が空欄であったため、検討や準備を行うのであれば、そうスケジュールに記載をとという意見があり、令和 4 年度に行う検討や準備について、スケジュールに追記いたしました。

続きまして 4 5 ページの KPI 2 行目、未就園の 3 歳未満の地域子育て支援センターの利用率について基準値の 1 3 % の割合の人数を追記しました。

また、この 4 5 ページと前の 4 3 ページにつきましては、全体的に記載の仕方が他のページと異なり文章となっていないため、表現を全体的に修正しています。

続きまして 4 7 ページ、KPI の情報冊子の配布率は、基準値目標値ともに 1 0 0 % というのはどうかとの意見があり、子育て支援情報冊子認知度に修正いたしました。

基本目標 3 に対しての意見も踏まえた主な修正点の説明は以上となります。

松井座長：

ありがとうございます。これについて質問ですが、冊子の認知度というものはアンケートをやっているということですか。

福祉保健課東係長：

こちらについては健診というものを行っており、その際の間診項目にこの項目があり、その集計になっています。

松井座長：

ありがとうございます。その他に質問はありますか。

直していただいております、% の方も分かりやすくなっている。では続いて基本目標 4 について説明をお願いします。

【基本目標 4 について 事務局片原より説明】

それでは、基本目標 4 の主な修正点について、説明させていただきます。

5 0 ページをご覧ください。

特定検診の受診率の向上が健康づくりには重要であり受診率の向上を目指し健康増進の推進が必要だと記載してはどうかとの意見があり、●の 3 つ目及び KPI の 3 行目に特定検診の受診率の向上について追記いたしました。

続きまして 5 2 ページ、重層的な取り組みについて記載してはどうかとの意見が、これは議会からの意見であったことから、●の一つ目本文 6 行目以降に重層的支援の取り組みについて追記いたしました。

続きまして 5 6 ページ、●の二つ目、AI やキャッシュレスについていきなりは難しいと思うので、1 つでも実現可能なものを記載してはどうかという意見があり、グーグルマップなどのウェブサイト等で他の公共交通などと一括で乗り継ぎルートが検索できるようにすることができる標準的なバス情報フォーマット、これは MaaS の基礎ともなるのですが、それを活用して提供できるよう、追記いたしました。また、KPI 一行目のふれあいバスの利用者満足度について、満足度の数値が分かりにくかったことから、0 ～ 5 の 5 段階と説明欄に記載し、基準値目標値ともに修正いたしました。

5 7 ページには、インバウンド対応の多言語化を入れてはどうかとの意見から、本文の 5 行目以降にインバウンドの対応も追記いたしました。

続きまして 5 8 ページ、セラピスト同行ツアーは、市でやるのか観光物産協会がやるのか、わかりづらいとの意見から●の一つ目に観光物産協会が実施し、それに市が協力支援するという形で修正いたしました。

5 9 ページ、本文の語尾で委託します等と表現がなっていたことから、あくまで目的があって手段として委託しているだけであってそのように記載するのはどうかとの意見から、主体的な表現に修正いた

しました。また、KPIの2行目に維持保全活動のKPIを追加できないかとの意見から、そのように追記いたしました。

続きまして60ページ、●の二つ目、広域的に観光誘客を進めますとあるが具体的に記載してはどうかとの意見があり、全体的に表現を見直し修正いたしました。

続きまして62ページ、KPI1行目体験メニュー回数とあるがメニュー回数という表現が分かりづらいとの意見から、尾鷲体験メニュー開催回数と修正しました。また、KPIの2行目、HPの閲覧回数などKPIに入れてはどうかとの意見から追記いたしました。

基本目標4に対する意見も踏まえた主な修正点の説明は以上となります。

松井座長：

ありがとうございます。これはかなり量が多いので、わかりにくいところもあると思うが、何か質問はありますか。

中西委員：

56ページのふれあいバスの収支率であります。これは前回の目標値が15.3%であったと思うが、これについては増加しているということは収入が増えるということですか。

なぜ6%程度前回より上がっているのか教えてほしいです。

事務局濱田補佐：

地域公共交通計画を策定しており、その数値の伸びを見て、21.6%としている。取る数値によって、コロナの影響などもあるが、伸ばしていかないとなかなか持続可能なものにならないということを考え、21.6%という数字を置かせていただいています。

松井座長：

それは改めて考え直したということですね。
他によろしいか。

塩津委員：

私は50ページの特定健診の受診率の向上の意見が取り入れられており満足しています。

松井座長：

他はどうでしょうか。

奥村委員：

58ページであるが、KPIのツアー実施回数について、確かに実施回数を増やせば達成できると思うが、これは実際に参加している人が何人と表現を変えることはできないものではないでしょうか。

商工観光課森本課長：

ツアーの実施回数を増やせば、おのずと参加人数も増えると思うので、ツアー実施回数を目標に掲げさせていただいており、人数よりも実施回数の方がKPIとしても設定しやすいと思います、このようにしています。

奥村委員：

確かに実施回数が多いが、それにたくさんの人が参加しているかということとはわからないので、できればここに参加人数も追加をできればわかりやすいのではないかと思います。どうですか。

松井座長：

基準値としてこの人数というものは把握していますか。

商工観光課森本課長：

それぞれのツアーによって最小の人数や最大受け入れ数があるので、一概に何人ずつということとは言えず、ツアーによって変化するため、このように表現をさせていただいています。

松井座長：

それはよくわかるが、たとえば現在の基準値となる、今年全体の参加人数は把握していますか。

商工観光課森本課長：

それは把握しています。

松井座長：

それであれば基準値としてそれも示していただき、そこから何%上げるといふ人数目標を設定することも可能と思うがいかがでしょうか。

商工観光課森本課長：

それは可能であると思います。

松井座長：

それも検討をしていただきたいと思います。

ほかにもあるので次に行きたいと思いますが、私の方からもこれは難しいと思いますが 52 ページで「属性を問わない包括支援の強化」というものは、これは本当に大変なことだと思います。

高齢者も増えており、またこれからは尾鷲市でも外国人の労働者に頼ることが多くなると予想をされるが、そのような人達をうまく市内に取り込むことによって人口の安定化を図るといふことも重要な要素ではないかと思うので、尾鷲を学ぶといふか、お互いに属性の違うことは仕方がないと思うため、障がいを持っている方や高齢者だけではなく、そういった世代や外国人の方も考慮に入れて、隔たり無く尾鷲を学んでいく取組があると良いのではないかと思います。

こういった属性を問わない包括的な支援の KPI として立てにくいと思うが、啓発を目標とした市民講座の開催回数と記載しているが、これも対象を分けていかないと実施は難しいと思う。これは計画案の訂正を求めているわけではなく、これの検証をする際に、どのような反省を求めていくかを出すことが重要ではないかと考えます。

1 年後に検証を出していくことになると思うが、指標を変えていくことになるきっかけになると思います。

指標があいまいであるところは、その指標を変えていく要素を入れていくことも重要ではないかと思いますが、最初は具体的なことは難しく、そこまでのことは言わないですが、そう思います。

ほかにはご意見はいかがでしょうか。

塩津委員：

「夢古道おわせ」について、次に委託をする業者は大丈夫なのか。しばらく休業をすると聞いている。

松井座長：

目途というものはあるのか。

塩津委員：

「夢古道おわせ」のお湯は評判であり、指標にも用いられているのでいかがでしょうか。

商工観光課森本課長：

大変申し訳ないが、再度公募という形を取らせていただき、ゴールデンウイーク後の開館になると想定しています。

松井座長：

ありがとうございました。それでは基本目標 4 についてはこれでよいでしょうか。これは修正が大変だったと思うが、今後も修正が必要と思うので、1 年ごとに見直せるような柔軟性を持って確認・修正をしていきたいと思っています。

事務局濱田政策調整課補佐：

ここで皆さんにご意見を頂きたいと思いますが、以前から課題となっている指標について、忌憚の

ない意見を頂きたいと思っております。

15 ページに総合的な指標を入れており、他の市町でも取り入れているところがあったため設定しており、これを入れることについて意見を頂きたいと思えます。

加えて目標数値の設定が良いかについてもご意見を頂きたいと思えます。

追加をした目標指標については、社会増減と合計特殊出生率の数値があり、現状のまま令和 8 年度まで推移すると人口は 13,642 人と推計され、人口は 2,612 人減少するとされているが、この総合戦略における様々な人口減少対策を行うことによって、令和 8 年の人口を 14,327 人、1,925 人の減少に留めることを目標指標に入れてはどうかと考えています。

次いで合計特殊出生率については、前回計画では基本目標 3 に入っており、この場所に入れても良いかということをお聞きしたいと思います。

また数値としては、将来展望として 1.82 を掲げた中で、この数値を入れていきます。

松井座長：

ありがとうございます。いかがでしょうか、全体の指標としては、個々のものではなく全体として市が入れてよかったと感じることのできるものを入れるということと思うが、人口が 2,612 人減少したのと、1,925 人減ったということを見ると、数値が出るものだと思いますが、これは高齢者も含むものでもあり、それが何を意味するかは個人的な感覚で言うと、市民側の立場であるとわかりにくいと思えます。

それであれば、若い人たちがこれだけ出ていっている状況で、若者の流出人口を抑えられた数値や流入人口の増加で、尾鷲の頑張りを表せないかと思えます。難しいでしょうか。

事務局濱田政策調整課補佐：

2 ページに記載していることは人口ビジョンですが、どのような数字を載せているかについては、社人研の想定によると尾鷲の人口は 2060 年に 4,302 人になるというものを、今回の総合戦略のビジョンを実施することによって 8,304 人にまで減り幅をなくし、それを表すものがあるかと考えて現在の形にしています。社会増減と自然増減を入れることについても検討に上がったが、自然減をどうやって抑制するのかとなるので、このようにしています。

松井座長：

社会減の方が大事ですね。

塩津委員：

社会減となると結局は雇用ということになりますか。

松井座長：

そうだと思います。

結局は高校生が残る、大学生が返ってくるということが問題になると思えます。

総合の指標であるため、中の一つ一つ見ていけばわかるものであり、そこまでわかりやすさは重視されたいと思うのがいかがでしょうか。

これで良ければこの指標で冊子を作る形になると思えます。

マイナスを減らすということが消極的に感じてしまうところがあります。60 点を 65 点にするということであればよいが、マイナス 30 点をマイナス 25 点にするということではわかりにくいような気がします。感覚的なものでありますが。

事務局濱田政策調整課補佐：

もう少し工夫をとということであれば、再検討をさせていただきます。

塩津委員：

高齢者が含まれており、自然減は止められないため、この見せ方だと厳しいと思えます。

松井座長：

これはかなり引きずると思えます。全体的な人口が減っていくことは仕方ないと思うが、その中でも若者がこれだけ残ったという見せ方をすればよいのではないのでしょうか。

事務局濱田政策調整課補佐：

再検討をさせていただき、会長にメール等でご報告するという事によろしいでしょうか。

松井座長：

それで問題ないです。そうならないと希望はないと思います。

事務局濱田政策調整課補佐：

次に 16 ページの基本目標 1 の指標を見ていただきたい。就業者数と市民所得を入れているが、これについて意見を頂きたいがいかがですか。

松井座長：

これは明確であるため良いと思います。

事務局濱田政策調整課補佐：

次に 35 ページをご覧ください。基本目標 2 の転入者数を目標指標に入れているが、移住に直接的な数値としてこの数値を入れています。

また、この部分は基本目標あたりも目標数が一つだけとなっており、この点についてもご意見を頂きたいと思います。

松井座長：

数値の設定の数については、他を見ると 2 つ以上とのことだが、無理に入れる必要はないと思います。これは 1 年間の転入者数ということですか。

事務局濱田政策調整課補佐：

そうです。

松井座長：

転入者数だけでよいのか気になります。

松井座長：

先ほど説明があったように 463 人の理由を書きおいてもらった方が良いと思う。転出者の方が上回っているの、それをいかに抑制するかということも重要と思います。

事務局濱田政策調整課補佐：

高校生のアンケートで市内の高校生に聞くと、勤める場所がないということを知っています。

松井座長：

それについては通勤をしてもよいと思うので、外部との交流の形として、通勤人口を増やすということも考えられます。

事務局濱田政策調整課補佐：

確かに尾鷲市役所内をみても市外の職員もおり、また、尾鷲から他に通っている人も多いです。

塩津委員：

高卒で一度外に出てもすぐに帰ってくる人もいます。

松井座長：

そういう人が尾鷲に勤めるとも限らないので、転出を抑えるという指標を入れるのも手だとは思いますが。

事務局濱田政策調整課補佐：

この部分については、繋がりづくりということで転入という形でこちらに来るということを中心し

ています。

交流によって転入・移住に繋げていくということであり、内容的にも転出の内容はありません。あとは根拠を記載すればよいと思います。

松井座長：

はい、それでよろしいですか。
それではその次の説明をお願いします。

事務局濱田政策調整課補佐：

次に 42 ページをご覧ください。

基本目標 3 の結婚・出産・子育ての希望を叶えるとのことなので、目標数値としては、アンケートの子育て支援の満足度と地域医療体制の満足度を入れていきます。前回計画では合計特殊出生率と子ども子育て支援への満足度を入れていました。

松井座長：

合計特殊出生率は辞めてしまったということですか。

事務局濱田政策調整課補佐：

それについては最初の総合的な指標の所に移動させています。

松井座長：

これはわかりにくいかとも思いますが、満足度についてはアンケートしかないため仕方ないかとも思います。

事務局濱田政策調整課補佐：

一つ考えたことは、項目ごとに KPI があり、それらを達成することによって各基本目標によって一体何の数値が上がったらよいかという考え方をさせていただいています。

個別の KPI から、基本目標ごとの達成数値が測られ、更に全体の達成状況によって人口減少の目標数値の達成状況を測るということを考えています。

松井座長：

結果的には最後の「住みたい・住み続けたい」の部分が重要になってくるということだと思います。

事務局濱田政策調整課補佐：

その通りと思う。

中西委員：

最後の結婚・出産・子育てにおいて、結婚についてのことが不足していると思います。
未婚率というものが問題であり、難しいところではあるが必要であると思います。

松井座長：

何か施策が書いてある方がいいのではないかとということですか。

塩津委員：

未婚の男女はたくさんいるが、中々結婚まで行きません。

松井座長：

これは心情的なところまで立ち入るので難しいところでもあります。

塩津委員：

随分昔だが、民生委員で結婚相談所のようなことをしており、長くやっていたが、やはり中々難しく成婚したことはあまりなかったです。

地域性もあり、女性が自身のプライバシーを出すことを嫌っていたので、申し込みが少なかったようであります。行政も成婚の手伝いになるイベントもやっているがそれも難しいと思います。

松井座長：

結婚・出産・子育てであるが、結婚の部分はやはり難しいと思います。

事務局濱田政策調整課補佐：

以前福祉のことをやっていたことがあると記憶しており、結婚支援事業のようなものを行っていたと思いますが。

福祉保健課山口課長：

塩津委員の言われるように、以前イベントをやったようであるが、市外の人しかカップルにならなかったようであります。

尾鷲市としては今後カップルになって新生活を迎えた人への補助として、30万円の住居取得費などの支援に取り組むことを考えています。

松井座長：

結婚したら何かいいことがあるとしか言いようがないです。結婚してくださいとは中々言い難いと思います。

塩津委員：

自然になればいいのであるが難しいです。

松井座長：

これは大宿題としてイベントだけではなくまた検討をいただきたいと思います。では基本目標3についてはこれでよろしいでしょうか。では次の説明をお願いします。

事務局濱田政策調整課補佐：

次に基本目標4になりますが、これは尾鷲市のアンケートにおいて、住み続けたいと回答した割合を取ったものを設定しています。また、こちらについても指標は一つとなっています。

松井座長：

こちらは中々指標を立てにくいところとは思います。

事務局濱田政策調整課補佐：

何かを立ててしまうよりも、包括的に取った方が良く、この指標にしています。

松井座長：

最終的には最初に言われた、大元の二つになりますので、就業者数や市民食所得などを反映してくると思いますが、いかがでしょうか。

他のものがあればと思うが、アンケートというものは、あくまでアンケートに答えてくれた人だけの結果になると思うがどうですか。

事務局濱田政策調整課補佐：

そうではあるが、ただアンケートというものは尾鷲の人口から計算して400人弱ほどの回答数を得ることができれば、基本的にはその人口の全体的な意見を得ることができると統計的にされているので、基本的にその数と、年齢的な率に合わせて取るようにしています。

松井座長：

私もそれは知っており、尾鷲市の回答率の高さは群を抜いていると思います。

これは年齢別に分けることはできませんか。例えば高齢者が住み続けたいという割合と、若年層が

住み続けたいと思う割合では意味が違いますので、区別するわけではないが、若年層が上がってきた、という結果が出ると嬉しいとおもいます。そのように分けるなども検討してほしいとおもいます。他にはよろしいか。

塩津委員：

そんなに細かくではなくて、おおざっぱでいいですか。

松井座長：

良いと思います。大枠を見るということで世代を3つほどに分けて出せると良いです。他にいかがでしょうか。なければこれで終わりとします。

【事項書3 その他】

松井座長：

その他についてはよろしいか。なければ個人的にだが、「取組」について、名詞と動詞で使う場合があり、送り仮名などばらばらに使われているため、訂正をお願いします。

事務局濱田政策調整課補佐：

誤字脱字などは再度チェックし訂正をさせていただき、最終版を委員の皆様にお送りさせていただきます。

松井座長：

長い時間ありがとうございました。それでは令和3年度第3回尾鷲市地方創生会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上